

浄土真宗東本願寺派野中山 正山寺

ほつ寺通信

※皆さんでご覧ください。

第26号

令和3年10月1日
発行責任者藤野慶正
(住職)

皆さんごんにちは。新型コロナの感染者急増(第5波)の驚きの冷めない昨今ですがいかがお過ごしでしょうか。ワクチン接種率の向上等によりある程度感染者数も落ち着くとは思われますが、まだまだ余談を許さない状況が続くかと思います。くれぐれも油断せずお気をつけてお過ごしください。法事等でもできる限りの感染対策をしております。皆様もマスク・検温・消毒等の対応をお願いします。また、お墓参りも自由にして頂いておりますが、マスクをされ、他の方との距離を保ちつつ、お静かにお参り下さい。ご理解ご協力の程、よろしくお願ひいたします。

報恩講について

今年の報恩講ですが、残念ながら昨年と同様の措置を取らせて頂くことになりました。正山寺檀家



Shousan Temple
チャンネル
11月14日(日曜)
11時スタート

の代表である世話人様のみ参詣をお願いし、小規模ながら報恩講を11月14日に開催する予定です。申し訳ありませんが、当日は正山寺へ来て頂いても構いませんが、本堂での報恩講法要への参加はご遠慮ください。

また、昨年同様、当日の様子をライブ配信(ユーチューブ)する予定です。お時間がありましたら、ご覧いただき、雰囲気を味わって頂けましたら幸いです。今回、少し趣向を変えて行おうかと考えています。飛び入り出仕もあるかも知れません。お楽しみに。

浄土真宗は、お東(大谷派)・お西(本願寺派)の他に、高田派・仏光寺派など、全部で十派あります。これらは内部紛争等によって分かれたのではなく、時代の流れの中で政治的に、また親鸞聖人の弟子さんによりその地域に形成された宗派です。大谷派と本願寺派の本山は、京都にある東本願寺と西本願寺であることはご存知の方も多いと思います。元々本願寺は一つだったのですが、第十一世顯如上人が亡くなられると長男教如上人が繼がれたのですが、時の権力者豊臣秀吉の介入により教如上人は隠居させられ、三男准如上人が繼がれ、現在の西本願寺となります。その後、徳川家康により東本願寺が建てられ、教如上人が招かれ、住職となりました。要は政治的な要因で東と西に分かれたのです。東と西で教えに大きな違いはありませんが、念佛やお経の読み方が若干違つたりします。

さて、正山寺はというと、お東に違つて、正山寺はお東本願寺派の「本山東本願寺」となっています(正式に認証されています)。現在の住職第二十代は、六世聞如上人(大谷光見御法主)により、法灯が守られています。

東本願寺派

さて、正山寺はお東本願寺派の「本山東本願寺」となっています(正式に認証されています)。現在の住職第二十代は、六世聞如上人(大谷光見御法主)により、法灯が守られています。

内の大谷派ではありません。四十年ほど前に大谷派では改革派による内部紛争により、新宗憲(宗派の憲法)が制定され、御法主から本山住職と大谷派管長の職が解かれ、門徒の主となる門首の職のみが与えられることになりました。これにより宗祖親鸞聖人からの血脉により受け継がれてきた法燈が断絶する危機に面してしまいました。しかし、当時大谷派本山の分院である東京本願寺(浅草田原町)の住職であった大谷光紹新門様(後の第二十五世興如上人)により、東京本願寺を大谷派から独立させることになり、血脉による法燈が守られることになりました。これに賛同した数百箇寺も独立することになり、正山寺も昭和五十六年に東京都の認証を得て、大谷派から独立したのです。現在、東京本願寺は、全国の独立寺院数百箇寺(末寺)と共に「浄土真宗東本願寺派」の「本山東本願寺」となっています(正式に認証されています)。現在の住職第二十代は、六世聞如上人(大谷光見御法主)により、法灯が守られています。

ですでの、正山寺は現在、大谷派ではなく、浄土真宗東本願寺派に属していることになります。少々分かりにくい説明ですみませんが、よく、大谷派と間違われることが多いので、皆さんに大谷派から独立した経緯を知つておいて欲しいと思い、今回記事にしました。

四十年前の当時、前住職の強い決意のもと沢山の方の協力を得て独立を実現したと聞いております。その頃私は学生でしたので、それほど気にしていませんでしたが、今ではよく実現してくれたと有り難く思っています。浄土真宗東本願寺派は、元の大谷派に比べ少數ではありますが、宗祖親鸞聖人から受け継がれた眞の法燈を守る高い志を持つた宗派であると思つていただければ幸いです。

得度

得度は仏教における僧侶となるための儀式です。親鸞聖人は幼くして両親を亡くされ、九歳の若さで出家を願われ、青蓮院慈鎮和尚のもとで得度されました。ここで有名な逸話を紹介しましょう。聖



※得度式後の記念撮影
左前が息子（大地※剃髪）、
右後が坊守（アイ子）、
右前が御法主台下です。

人が得度を願われた時は夜遅くであつたため、慈鎮和尚は明日にしようと言わされたのですが、聖人は「明日ありと 思う心の あだ桜 夜半に嵐の 吹かぬものかは」と歌われたといいます。「綺麗に咲いている桜も、夜中に嵐が吹き散つてしまうこともある」という意味で、明日を待たず直ぐに得度を願われたのです。それほどの強い決意で持つて得度されました。

前置きが長くなりましたが、実は、今年7月に本山東本願寺にて、息子（大地※九歳）と坊守（アイ子）が得度を受け、無事に僧侶の資格を取ることが出来ました。さすがに聖人ほどの強い志を持つて得度した訳ではないと思いますが、春先から読經の練習に励んでくれました。正山寺にとって将来に明るい出来事となりました。

坊守のコラム

ぼうもり※住職の妻

前回、お經に取り組んでいるとお伝えしたのは、得度に向けてという事でした。得度の際、男性は剃髪をしなければなりません。普段は私がバリカンで適当にカットしていましたが、流石に今回は床屋さんへ。日焼けした顔や手足と違ひ髪で覆っていた頭皮は、なんと青白いこと。なかなか形の良い頭でマルコメ君そのもの（笑）。

本人がそれ程嫌がつていなかつたのは、大好きな外国のアクション俳優さんがスキンヘッドだからでしょうか。さて、当日は、午前中無事に読經の考查に合格し、午後から得度式。控え室に集まると、私達の他に、息子と同年の男の子と、長身の男性、若い女性の5人が白衣姿。都心、横浜、新潟と各地から。儀式で行う内容の説明を受け、いざ本番へ。正座に合掌の姿勢を崩してはいけない時間が長く、横に並ぶ5人が、足の痺れにもじもじしている様子が気配で分かれます。私もぎりぎりです。本堂は扇風機が回っていましたが、

着物を何重にも着ているので、汗が流れます。それに比べて本山のお坊さん達の所作、姿勢のなんとキリリとしたことでしよう。日頃の行いの賜物ですね。自分自身も、息子も、一生に一度の記念すべき経験をさせて頂いた一日でした。

あとがき

前半、特に東本願寺派の話は分かりにくくてすみません。そんな中、得度という正山寺にとつて明るい話題を届けることが出来ました。報恩講は残念ながらご参加頂けませんでしたが、お時間がありましたらライブ配信をご覧頂ければ幸いです。皆様、お元気で。